

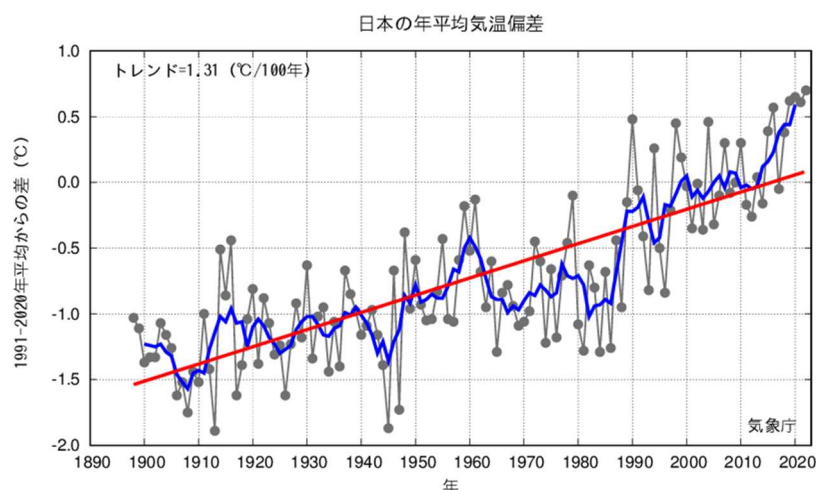
2022 年（令和 4 年）の日本の年平均気温¹（速報）

2022 年の日本の年平均気温偏差（1991～2020 年の 30 年平均値からの偏差²）は+0.70℃（1～11 月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した 1898 年以降、2020 年を上回り、最も高い値となる見込みです（図 1）。日本の年平均気温は、長期的には 100 年あたり 1.31℃の割合で上昇しており、特に 1990 年代以降、高温となる年が多くなっています。

2022 年の日本の平均気温の特徴として、春から秋にかけては上空の偏西風が平年より北寄りを流れやすく大気全体の気温が高かったこと、夏は日本の南海上で太平洋高気圧の勢力が強かったことなどから平均気温の高い月が多くなりました（日本の天候の詳細は別紙 1-2 に記載）。

日本の平均気温は、数年程度から数十年程度の時間規模の自然変動の影響を受けて変動しながら、二酸化炭素などの温室効果ガスの増加に伴う地球温暖化の影響により長期的に上昇しています。

また、2022 年の日本近海の年平均海面水温偏差（1991～2020 年の 30 年平均値からの偏差）は+0.59℃（1～11 月の期間から算出した速報値）で、統計を開始した 1908 年以降、2 番目に高い値となる見込みです（図 2）。日本の天候と互いに影響しあう日本近海の海面水温も、自然変動の影響を受けながら長期的には昇温傾向が見られています。



順位	年	気温偏差* (°C)
1	2022	+0.70**
2	2020	+0.65
3	2019	+0.62
4	2021	+0.61
5	2016	+0.58
6	1990	+0.48
7	2004	+0.46
8	1998	+0.45
9	2015	+0.39
10	2018	+0.38

図 1 日本の年平均気温偏差の経年変化（1898～2022 年、速報）と順位表（上位 10 年）

黒線は各年の基準値からの偏差、青線は偏差の 5 年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。基準値は 1991～2020 年の 30 年平均値。2022 年は 1～11 月までの観測データによる速報値。

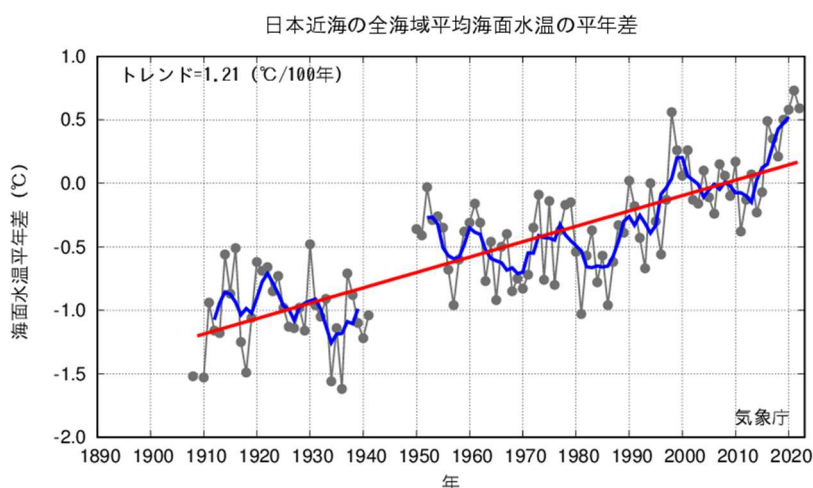
*：基準値（1991～2020 年の 30 年平均値）からの偏差

**：2022 年の値は 1～11 月までの観測データによる速報値

¹ 日本の平均気温の偏差の算出にあたっては、都市化による影響が比較的小さく、長期間の観測が行われている地点から、地域的に偏りなく分布するように選定した 15 地点（※）の気象台等の観測値を採用している。

※網走、根室、寿都（すつつ）、山形、石巻、伏木、飯田、銚子、境、浜田、彦根、宮崎、多度津、名瀬、石垣島

² 日本の年平均気温の偏差は各年の平均気温から基準値を差し引いた値から算出している。ここでの基準値は、1991～2020 年の 30 年平均値。



順位	年	平年差 (°C)
1	2021	+0.73
2	2022	+0.59**
3	2020	+0.58
4	1998	+0.56
5	2019	+0.50
6	2016	+0.49
7	2017	+0.35
8	1999	+0.26
8	2001	+0.26
10	2018	+0.21

図2 日本近海の全海域平均海面水温（年平均）の平年差の経年変化（1908～2022年、速報）と順位表（上位10位まで）

黒線は各年の平年差、青線は偏差の5年移動平均値、赤線は長期変化傾向（この期間の平均的な変化傾向）を示す。平年値は1991～2020年の30年平均値。2022年は1～11月までの観測データによる速報値。

**：2022年の値は1～11月までの観測データによる速報値

本資料は、2022年1～11月までの観測データをもとに、速報としてまとめたものです。

日本の年平均気温の確定値と年降水量は、2023年1月初めにホームページ（下記URL）で発表します。同ページでは、年別・季節別・月別の世界及び日本の平均気温を随時更新・掲載しています。また、日本近海の海面水温は、2023年3月10日に発表します。

気温・降水量の長期変化傾向 <https://www.data.jma.go.jp/cpdinfo/temp/index.html>

海面水温の長期変化傾向（日本近海）

https://www.data.jma.go.jp/kaiyou/data/shindan/a_1/japan_warm/japan_warm.html

日本の気温・降水量



日本近海の海面水温

